

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
福島医療 専門学校	平成12年12月4日	飯島 正治	〒963-8026 福島県郡山市並木三丁目2番地の23 (電話) 024-933-0808				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 福寿会	平成12年12月4日	岸野 政子	〒963-8026 福島県郡山市並木三丁目2番地の23 (電話) 024-933-0808				
目的	本校は教育基本法および学校教育法に従い専修学校教育を行うと共に、「医は仁術である」という医療の原点に立ち、「福寿高尚」という理念を掲げて指導にあたっています。はり師、きゅう師に必要な知識、技術を習得させる実践的な専門教育を行いつつ、医療に奉仕する心と豊かな人間性を養い、「ちえ・わざ・こころ」を兼ね備えた社会に貢献できる真の医療人の育成を目的としています。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	鍼灸科 (3部)	平成19年文部科学省 告示第21号	-			
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	夜間	96	80	18	1	0	15
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90 人		35 人	7 人	9 人	16 人		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: (有) ■成績評価の基準・方法 試験等で総合的に評価し、100点満点 で60点以上が合格です。			
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月29日～8月20日 ■冬季:12月23日～1月8日 ■学年末:3月10日～3月31日		卒業・進級 条件	■卒業要件: ①必修科目の全ての単位を修得していること。②出席日数が年間授業日数の 2/3以上であり、且つ各教科の出席時 数が授業時数の2/3以上であること、実 習においては実習時数の4/5以上であ ること。③定められた納付金を完納して いること。 ■進級要件: ①当該学年の出席日数および出席時 数が2/3以上、実習においては4/5以上 であること。②「必修科目」の未修得単 位数の累計が10単位以下であること、 当該年度の「ゼミナール(演習科目)」の 未修得単位数が2分の1以下であるこ と。③定められた納付金を完納している こと。			
生徒指導	■クラス担任制: (有) ■長期欠席者への指導等の対応 欠席者には理由を書いた欠席届 を提出させています。中でも長期 の欠席者に対しては担任が随時 連絡を取り合って状況の確認を 行っており、授業が欠席超過にな りそうな時は注意を促して進級要 件に抵触しないよう指導していま す。さらに欠席の理由によっては 学生面談や三者面談、カウンセリ ングの斡旋を行うなど、学生の側 に立った指導を心がけています。		課外活動	■課外活動の種類 柔道大会やトライアスロン学生選手権大会 への各種救護ボランティア。 高校部活動のトレーナー活動。 スキー場研修。 寮生による町内スポーツ大会への参加。 学友会主催レクリエーション ■サークル活動: (有) 柔道部 トレーナー研究会 ターザン倶楽部			

就職等の 状況	■主な就職先、業界等 鍼灸院、鍼灸接骨院、病院	主な資格・ 検定等	はり師国家試験受験資格 きゅう師国家試験受験資格
	■就職率^{※1} : 100 %		
	■卒業者に占める就職者の割合^{※2} : 86 %		
	■その他 (平成 28 年度卒業者に関する 平成29年4月1日 時点の情報)		
中途退学 の現状	■中途退学者 2 名	■中退率 6.7 %	
	平成28年4月1日 在学者 30 名(平成28年4月1日 入学者を含む) 平成29年3月31日 在学者 28 名(平成29年3月31日 卒業者を含む)		
	■中途退学の主な理由 学力 ■中退防止のための取組 担任による面談やカウンセリングで心のケアを図ると共に、成績不良者へは補習授業 や個別の質問指導を適時行い学力の強化を図っています。また各科会議では学生の 動向や情報を共有し、担任と科目担当者とが連携を取りながら問題点の把握と早期対 応に努めています。		
ホームページ	URL: http://www.f-iryo.ac.jp		

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

日本における地域包括ケアシステムという概念は高齢者の介護保険サービスを中核とした他職種連携の中で登場した。その後介護保険法の改正を経て「医療」「介護」「予防」「生活支援サービス」「住まい」という5つの構成要素をもつシステムとして、2025年に迎えるだろう単身または高齢者のみの世帯が主流になる時代にむけてシステムの構築が急がれている。

平成26年4月に開催された第100回社会保障審議会介護給付費分科会の資料の中で「医療・介護サービスの提供体制改革後の姿」の地域包括ケアシステムの中に「はり師、きゆう師、あん摩マッサージ指圧師」が明記されたことにより、鍼灸師も地域における「医療」「介護」「予防」を担う人材となった。

本校では、学校の授業だけでなく外部実習の実施や外部講師の講演を聴講することにより鍼灸師以外の職種についての理解と連携を図ることの重要性について指導を行ってきた。今後は地域医療を担う人材の一つとして活躍できるような教育を実践していきたい。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名前	所属
土江 直一	全国柔整鍼灸協同組合 事務局長
菅野 洋子	一般社団法人 福島県歯科衛生士会 監事
熊田 勝	くまだ接骨院 院長
中沢 良平	一寸法師ハリ治療院 院長、一般社団法人福島県鍼灸師会 会長
松岡 伸幸	つつみ鍼灸整骨院院長、福島鍼灸マッサージ協同組合監事
今泉 志津子	一般社団法人福島県歯科衛生士会 郡山支部長、フリーランス
飯島 正治	校長
木野 達司	副校長
白江 誠	教務部長
齊藤 慎吾	教務副部長
鈴木 英明	柔整科学科長
手塚 清恵	鍼灸科学科長
柴田 佐智子	歯科衛生士科学科長
大橋 健次	事務局長
小池 一幸	教務課長

(開催日時)

第1回 平成28年 7月24日 10:00～11:30

第2回 平成29年 1月22日 10:00～11:45

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

普段意識してはいないが、東洋思想が生活に密着していることを理解する。その上で東洋思想を活かした東洋医学、鍼灸医学について患者、環境を含め学習をしていく。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	臨床実習は、3年間の総まとめとして、外来患者に対して、鍼灸臨床の知識・技術を生かして傷害部位、反応点などを把握し、鍼灸施術の適・不適の判断や経過・予後の状況などについて附属治療院で実習経験することを目的としている。また、治療院における受付から施術の一連の流れやカルテの記載、症例検討なども修得できるよう指導する。	鍼灸あん摩マッサージ 往療専門 星 正子

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

関連雑誌などを積極的に購入し専攻分野の最新情報を得るようにしているほか、関連学会、団体などへ参加させ、最新の研究事情や学指導方法等について見識を深め、自らが担当する講義や実習に活

かすようにしている。また、多方面からのボランティア要請に対応することで社会のニーズを把握し、専攻分野がどのように求められているのかを理解する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
菅野 洋子	一般社団法人 福島県歯科衛生士会 監事
山本 忠臣	善用堂やまもと整骨院院長、康友会会長
三瓶 直之	安積野さんぺい整骨院院長
箱岩 義郎	ひまわり鍼灸接骨院院長、福島県鍼灸師会財務部副部長
加藤 めぐみ	穴田歯科医院勤務、学校法人福寿会評議員

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.f-iryo.ac.jp/school-profile/release.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.f-iryo.ac.jp/school-profile/release.html>

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸科3部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自然科学Ⅰ	人体の構造の基礎知識として細胞学・組織学に重点を置き、発生学および循環系・呼吸器系・消化器系についての概要を系統別に概要を習得させる。 また、専門用語を一般的に使われる言葉に置き換えて示し、より学習しやすい環境で習得させる。	1前	16	2	○			○			○	
○			自然科学Ⅱ	泌尿器系・生殖器系・内分泌系・神経系・感覚器系・運動器系についての概要を系統別に概要を、専門用語を一般的に使われる言葉に置き換えて示し、より学習しやすい環境で習得させる。	1前	16	2	○			○			○	
○			生命科学Ⅰ	生理学は生命・生体の仕組みを考える学問である。ここでは主として人について、これを構成する様々な組織や器官の構造とその働き働きについて学習する。生命の仕組みについての理解は鍼灸師として必要不可欠である。様々な問題を理論的に考え、的確な判断を下すための重要な基礎知識となる。生命科学Ⅰでは生理学の基礎と神経組織・筋組織の働きを学ぶ。	1前	16	2	○			○			○	
○			生命科学Ⅱ	生理学は生命・生体の仕組みを考える学問である。ここでは主として人について、これを構成する様々な組織や器官の構造とその働きについて学習する。生命の仕組みについての理解は鍼灸師として必要不可欠である。様々な問題を理論的に考え、的確な判断を下すための重要な基礎知識となる。生命科学Ⅱでは循環や呼吸、排泄といった生命活動を学ぶ。	1後	16	2	○			○			○	
○			東洋数学	私達が日頃目にしているカレンダーには東洋思想の要素がいっぱい潜んでいる。夏至、冬至、春分、秋分等は太陽と地球の関係だけでなく生活にも影響があり、「土用の丑の日」は東洋思想に基づく考え方の習慣である。それら生活に密着した東洋思想から医学的観点へと発展させ今後の東洋医学を学ぶ上での下地になるような知識を身に付ける。特に人体と東洋医学においては東洋医学の診察手法である「四診」について説明した上で顔色や舌の状態、脈診を自分自身あるいは学生間で確認および観察を行う。	1前	16	2	○	△		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			スポーツ科学	スポーツにおける傷害を理解し、その発生メカニズムや運動解析を行いスポーツ傷害の予防やパフォーマンスを向上させるための知識を修得する。	2前	16	2	○			○	○				
○			外国語	医学に関する英文を読ませ基本的な用語の知識と内容を把握させる。又、英文の音読に慣れさせ、辞書の使い方にも慣れさせる。	1後	16	2	○			○			○		
○			解剖学Ⅰ	運動器系・循環器系・呼吸器系・消化器系についての詳細な構造を系統別に習得させる。また、これまでに別個に習得した各系統との関係性および簡単な機能についても示し、人体の構造と機能について一全体として理解できる。	1後	16	2	○			○				○	
○			解剖学Ⅱ	泌尿器系・生殖器系・内分泌系・神経系・感覚器系についての詳細な構造を系統別に習得させる。また、これまでに別個に習得した各系統との関係性および簡単な機能についても示し、人体の構造と機能について一全体として理解できる。	1後	16	2	○			○				○	
○			解剖学Ⅲ	これまでに習得した各系統・器官別の人体構造を、視点を変えて局所解剖学的な説明を加え、総合的な構造理解へと再構築させる。また、諸器官の体表への投影も示し、体表から触知可能な指標となる部位から諸器官の位置も習得させ、更に深く人体構造を理解させる。	2通	16	2	○			○					○
○			解剖学Ⅳ	国家試験対策として、出題頻度の高い内容や最近の出題傾向について示し、これまでに習得した知識の再復習を行う。また、模擬試験問題の解答・解説を行い、学生個人の苦手範囲や理解不十分な範囲を抽出させ、重点的に学習させる。	3前	16	1	○			○					○
○			生理学Ⅰ	生体の機能としくみの基礎を知り、生体が内外からの変化にどのように対応するかを理解する。本科目では細胞、血液、消化・吸収、代謝について学ぶ。	1前	16	2	○			○					○
○			生理学Ⅱ	生体の機能としくみの基礎を知り、生体が内外からの変化にどのように対応するかを理解する。本科目では体温、内分泌、生殖・成長・老化について学ぶ。	1後	16	2	○			○					○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生理学Ⅲ	生理学で持ちいる用語の説明をする。体の運動や感覚といった内容を中心に神経・筋・免疫反応について基礎を学習する。ホメオスタシスにおける具体的な体の調整機能を学習する。	2通	16	2	○			○		○		
○			生理学Ⅳ	2年次までに学習した内容を総合的に学習する。細胞の構造や機能から身体の調節までの幅広い学習を通し、人体についての理解を深める。	3前	16	1	○			○		○		
○			病理学概論Ⅰ	疾患を理解するための基礎知識として、病気の成立、原因、病態、および細胞、組織、臓器での変化を学習する。後者については図、写真により具体的な理解に努める。各授業ごとに学習した内容を小試験とその解説の形式で確認する。	2前	16	2	○			○		○		
○			病理学概論Ⅱ	疾患を理解するための基礎知識として、病気の成立、原因、病態、および細胞、組織、臓器での変化を学習する。後者については図、写真により具体的な理解に努める。各授業ごとに学習した内容を小試験とその解説の形式で確認する。概論Ⅱでは臨床科目との関連性を各項目ごとに臨床所見と病理図を照らし合わせて説明する。	2後	16	2	○			○		○		
○			臨床医学総論	現代医学的身体診察法を学び、患者の診察から診断までの道筋を理解することが目的である。場合により疾患の見逃など、東洋医学的知識のみでは起こりうる可能性があることを理解し、術者としての臨床力を高める知識を身につける。	2前	16	2	○			○		○		
○			臨床医学各論Ⅰ	現代医学の診察法や治療法の概要を理解させると共に、現代医学の立場から各疾患の症状について診察法、検査法、治療法を理解し、東洋医学的知識と統合して鍼灸施術を適切に行う能力・態度を身につける。	2前	16	2	○			○		○		
○			臨床医学各論Ⅱ	現代医学の診察法や治療法の概要を理解させると共に、現代医学の立場から各疾患の症状について診察法、検査法、治療法を理解し、東洋医学的知識と統合して鍼灸施術を適切に行う能力・態度を身につける。	2後	16	2	○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			臨床医学各論Ⅲ	現代医学の診察法や治療法の概要を理解させると共に、現代医学の立場から各疾患の症状について診察法、検査法、治療法を理解し、東洋医学的知識と統合して鍼灸施術を適切に行う能力・態度を身につける。	3前	16	2	○			○		○		
○			リハビリテーション医学Ⅰ	リハビリテーションの理念と障害と生活の関係を理解する。障害の評価方法、障害に対するアプローチを学ぶ	2後	16	2	○			○			○	
○			リハビリテーション医学Ⅱ	リハビリテーションの概略を理解した上で、脳卒中、脊損、切断等の具体的な疾患に対するリハビリ的アプローチを学ぶ。また、運動学的見地から人体の構造を振り返り「関節の動き」を学ぶ。	3前	16	2	○			○			○	
○			衛生学・公衆衛生学Ⅰ	個人・集団に対する健康の維持・増進ならびに疾病・異常の公衆衛生学的な予防方法を学習する。生活習慣病とライフスタイルの関連性を理解し、QOL向上の要因について学ぶ。感染症も含めた地域集団の疾病・異常を疫学的に分析できる能力を養う。	1前	16	2	○			○			○	
○			衛生学・公衆衛生学Ⅱ	環境中の種々の有害要因が健康に及ぼす影響、ライフステージにおける健康問題を把握する。さらに、人々が健康であるために必要な疾病予防の概念、疾病の原因を追求する疫学研究、保健医療制度の基礎知識を身につける。	1後	16	2	○			○			○	
○			医療概論	西洋医学と東洋医学の歴史、現代医学の課題、我が国の医療制度、医療従事者に要求される倫理を学ぶことを通じて、医療の概要を理解する。	3前	16	1	○			○			○	
○			関係法規	あはき師等に関する法令および医療に係る各種の関係法規について理解する。	3前	16	1	○			○			○	
○			鍼灸理論	鍼の材質や艾の作り方などの基本から、鍼灸の刺激についてや体に及ぼす影響を基礎理論を通して学ぶ科目である。	2後	16	2	○			○			○	
○			臓腑経絡論	東洋的な理論で人体を考え基礎となる経絡を臓腑と関連付けて考えられるようになることを目標とし、経穴や治療への応用の基本を習得を目的とする。	1前	16	2	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			東洋医学概論 I	東洋医学独自の概念を知り、東洋医学的な考え方で人体の仕組みや疾病を学ぶ。	1後	16	2	○			○		○		
○			東洋医学概論 II	東洋医学独自の概念で人体を診て、特に病の状態や原因を学ぶ。	2後	16	2	○			○		○		
○			東洋医学臨床論 I	様々な症候に対して、東洋医学・西洋医学の両面で考えられることのできる知識を身に付ける。さまざまな症候に対して、西洋医学的な知識と東洋医学的な知識で多角的に判断し、鍼灸治療の適否や、患者にとって最良な治療の選択が出来る鍼灸師の考えを学ぶ。	2前	16	2	○			○		○		
○			東洋医学臨床論 II	様々な症候に対して、東洋医学・西洋医学の両面で考えられることのできる知識を身に付ける。さまざまな症候に対して、西洋医学的な知識と東洋医学的な知識で多角的に判断し、鍼灸治療の適否や、患者にとって最良な治療の選択が出来る鍼灸師の考えを学ぶ。	2後	16	2	○			○		○		
○			東洋医学臨床論 III	現代医学の診察法や治療法の概要を理解させると共に、現代医学の立場から各疾患の症状について診察法、検査法、治療法を理解し、東洋医学的知識と統合して鍼灸施術を適切に行う能力・態度を身につける。	3前	16	2	○			○		○		
○			東洋医学臨床論 IV	各種の症候・疾病に対して、東洋医学的及び現代医学的な考え方による病態認識、主要な症状・所見、鍼灸治療法方法等について問題演習を通して理解を深める。	3後	16	2	○			○		○		
○			漢方概論	国家試験対策として、東洋医学臨床論の東洋医学的な考え方を理解し、問題が解けることを目標とする。	3後	16	2	○			○		○		
○			社会鍼灸学	戦後70年以上経過した現代社会は、超高齢化社会の到来が目前に迫り、疾病構造の変化により生活習慣病が増大した。鍼灸師のプライマリケアとしての位置づけやその役割を担うために、地域のニーズをどう捉え患者のQOLを向上していくかを学ぶ。	2後	16	2	○			○		○		
○			基礎実技 I	鍼の基礎知識、刺鍼に対しての基礎知識等を学ぶことで、安全に対人刺鍼を行える知識と技術を身につける。同時に鍼の知識だけではなく、危機管理についても習得を目指す。	1通	32	2			○	○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			基礎実技Ⅱ	お灸の基礎的な技術と知識の習得を目的とする。施灸板を使用し、艾炷の作り方、火のつけ方を学習する。最終的には対人施灸での知熱灸をできるように指導をする。またそれに伴う、お灸の基礎知識・施灸の流れを身につける。	1通	32	2			○	○		○		
○			基礎実技Ⅲ	経絡および経穴を学習し、鍼灸治療の基礎を学習する。	1通	32	2			○	○		○		
○			応用実技Ⅰ	東洋医学の身体観に基づく診察法を学び、舌診・脈診等の診察技術を身につける。また、合せて診察から施術に至る手順を身につける。	2通	32	2			○	○		○		
○			応用実技Ⅱ	様々な症候に対して、東洋医学・西洋医学の両面で考えることのできる知識および実技を身につける。	2通	32	2			○	○		○		
○			応用実技Ⅲ	頸椎疾患、肩関節疾患、腰の疾患、膝関節疾患の基礎知識と鑑別に必要な徒手検査を身に着ける。また、これらの疾患についての治療方法を学ぶ。	2通	32	2			○	○		○		
○			臨床実技Ⅰ	1 身体の仕組みを主体とする治療論を理解し実践力を養う。 2 刺鍼の基礎力の向上を図る。 3 人体構造についての正確な知識と実践的な触察力を高める。 4 効果を確認できる治療技術を指導する。 5 心地よく魅力ある治療を課題として指導する。 7 授業のゴールを①腰痛治療 ②緊張型頭痛 ③疲労回復の治療を確実に、心地よくできる治療力を指導する。	3通	32	2			○	○		○		
○			臨床実技Ⅱ	良導絡の理解を知り、理論に基づき測定、診断、治療方針を立て治療ができるようになることを目標とする。	3前	32	1			○	○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			臨床実習	臨床実習は、3年間の総まとめとして、外来患者に対して、鍼灸臨床の知識・技術を生かして傷害部位、反応点などを把握し、鍼灸施術の適・不適の判断や経過・予後の状況などについて附属治療院で実習経験することを目的としている。また、治療院における受付から施術の一連の流れやカルテの記載、症例検討なども修得できるよう指導する。	3通	45	1			○	○		○		○
○			総合領域Ⅰ	1年、2年で学習した内容を復習し、国家試験合格に必要な知識を十分に身につける。	3前	16	2	○			○		○		
○			総合領域Ⅱ	鍼灸理論とリハビリを通じて教科毎の知識から横串を通す様な知識へと発展させる。問題を解きながら関連知識を広げる様にする。	3後	16	2	○			○			○	
○			総合領域Ⅲ	過去の国家試験問題を参考に解答・解説を行い、理解不十分の範囲とその周辺範囲を再度講義を行う。 また、人体構造の観点から生理学や病理学、および臨床等との関係性も示し、他教科の理解を共に深められるような学習方法を指導する。	3後	16	1	○			○			○	
○			総合領域Ⅳ	国家試験の問題を実施し、理解が不足している部分を解説していく。基礎の復習に重点を置き、何度も学習する。	3後	16	1	○			○			○	
○			総合領域Ⅴ	1年、2年で学習した基礎的な、あるいは応用的な知識をさらに徹底させ、国家試験に合格するための実践力を養う。	3後	16	2	○			○			○	
○			鍼灸総合学Ⅰ	模擬試験を通じて各科目の学習内容について総合的な理解を目指す。	2通	16	1	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			鍼灸総合学Ⅱ	学習の総まとめとして、知識や理解度の確認を行う。それにより国家試験受験に向けて補うべき項目を自覚させ、広く知識を得ることを目的とする。	3通	16	1	○			○		○		
	○		職業教育Ⅰ	学内外の臨床や医療に関わる幅広い意見などを聞き、社会人・医療人としての知識や経験を積むことを目標とする。	1通	15	1		○		○		○		
	○		職業教育Ⅱ	学会等で様々な講義を聴き、はり師きゅう師について知識・理解を深め、社会人・医療人としての職業意識を高める。	2通	15	1		○		○		○		
	○		総合演習Ⅰ	学内外の臨床や医療に関わる幅広い意見などを聞き、社会人・医療人としての知識や経験を積むことを目標とし試験問題に取り組み自分の学習状況把握しながら学習に役立てることを目標とする。	1通	16	2		○		○		○		
	○		総合演習Ⅱ	学会運営に参加すること、聴講を通じて、はり師きゅう師について知識・理解を深め、見聞を広める。また、学習内容の復習・症例等を通じて、知識・技術の理解を深める。	2通	16	2		○		○		○		
	○		総合演習Ⅲ	今一度各科目の基礎に立ち返ることで、学力の向上を図り、国家試験受験に向けて自信をつけることを目的とする。同時にその先にある鍼灸臨床現場での最低限の知識を身につける。	3通	16	12		○		○		○		
合計			58 科目		2091 単位時間(114 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は必修科目の全単位修得である。成績評価は学年末において各学期末に行う試験、実習授業の成果、履修状況等を総合的に勘案して行われ、合格者に単位を認定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	23週